

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 後藤敏文	1学期	火	5
◆ 講義題目	ヴェーダ文献研究「祭式と布施の効力」から「業と輪廻」へ				
◆ 到達目標	「業と輪廻」の公理の源泉を、リグヴェーダ、アタルヴァヴェーダ、ブラーフマナ、ウパニシャッドに探り、文献学的思想史研究の訓練とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	1 概説、リグヴェーダ「ヤマの歌」X14抜粋 2 アタルヴァヴェーダにおける「祭式と布施の効力」 3-5 ヤジュルヴェーダ・サンヒターにおける展開 6-8 ブラーフマナ文献から (ŚB, JB, TB, AB) 9-10 ウパニシャッドから (BĀU, ChU) 11-13 初期仏典から 14-15 ジャイナ教など、まとめ。毎回出席者全員に訳してもらい、文献学的方法を身につけるべく努める。合理的に予習と復習とを心がけること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer, Gotō (Morphology) を座右に置くこと。さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 後藤敏文	2学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。第Ⅶ巻から抜粋して、比較的速く読む訓練を心懸ける。Geldner, Graßmann, Mayrhofer, AiG, Gotōをはじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (1)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、昨年度に引き続き、大戦争の末にカウラヴァ全軍を失ったドゥルヨーダナとビーマとが繰り広げる棍棒による決戦の後半部で、決闘に敗れたドゥルヨーダナと神の化身クリシュナとの応酬の場面を中心に講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『ヴィシュヌ・プラーナ』は、ヴィシュヌ信仰を一貫して説く比較的成立の早いプラーナであり、特にその第1巻・第2巻に説かれる宇宙創造説は、ヴィシュヌ教徒にとどまらず、ヒンドゥー教徒一般の伝統的な世界観と時間論の雛型を成していると言ふことが出来る。今学期は、第1巻冒頭の三つの章を解読して、『ヴィシュヌ・プラーナ』の世界観の基礎を理解することを目的とする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 III	2	非常勤講師 茂 木 秀 淳	集中 (1)		
◆ 講義題目	Mokṣadharmā にみられる初期サーンキヤ思想				
◆ 到達目標	(1) 古代インド最初期の思想であるサーンキヤ思想形成期の様相について理解する。 (2) 叙事詩のサンスクリット語に慣れる。				
◆ 授業内容・目的・方法	Mokṣadharmā 中のサーンキヤ思想に関連する章(187章、291章以降)を抜粋して、輪読形式で読みながら検討し、初期のサーンキヤ思想の基本的な概念について理解を得ることを目的とする。				
◇ 成績評価の方法	平常点(100%)				
◇ 教科書・参考書	テキストはプーナ版 Mahābhārata を用い、必要な部分をコピーして配布する。参考書は随時紹介する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授 桜 井 宗 信	1 学期	水	2
◆ 講義題目	Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する学僧 Bu ston Rin chen grub の著作『秘密の門を開く』(gSañ baḥi sgo ḥbyed) の講読を通じて、13世紀チベットにおける Guhyasamājatantra 理解の標準的様態、及び密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他(授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	gSañ baḥi sgo ḥbyed [Toh 蔵外5075]、『Bu ston 全書』第9巻所収				
その他：「古典チベット語初級文法 I の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	水	2
◆ 講義題目	Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前semesterに引き続き Bu ston の『秘密の門を開く』の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	gSañ baḥi sgo ḥbyed [Toh 蔵外5075]、『Bu ston 全書』第9巻所収				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 後藤敏文	1学期	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット語、サンスクリット文学について訓練を行う。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド美文学を代表するカーリダーサの「シャクンタラー姫の物語——想起の場——」を題材とする。第2幕から始める。毎回出席者全員に訳してもらい、合理的に予習と復習とを心がけること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。				
◇ 教科書・参考書	M. Williams 版に基づく。文法、シンタクスの基本に留意すべく参考書を利用する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授 後藤敏文	2学期	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、文献学、ヴェーダ学の基礎知識、方法を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	「シュナハシェーパの物語」、「パニ族の牛の強奪」を予定。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、神話や祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらい、予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer, Gotō (Morphology) を座右に置くこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (1)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ヒンドゥー法典は法 (dharma) の認識根拠としての法源 (dharmamūla) の一つとして、慣習法に相当する「良き人々の慣行」を認める。今学期は、クマーラが Tantravārttika の中で、「良き人々の慣行」が法源となりうることについて『マハーバーラタ』に描かれた英雄たちの行状を例として論じている節を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 Ⅱ	2	准教授	吉 水 清 孝	2学期	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究(2)					
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。今学期は、パールチ(7世紀ごろ)による現存最古の『マヌ法典』註釈のうち、出家者の生活と瞑想を規定した第6章への註釈を中心に講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他(授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 Ⅰ	2	教授	桜 井 宗 信	1学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu(世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では一昨年度に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他(授業中に示される理解度) [30%]					
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：ABHIDHARMAKOSĀBHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima、山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真諦訳)。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>					
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では一昨年度に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%]・ <input type="checkbox"/> リポート [%]・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima、山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					